

16. 植樹際を通じたの国有林の イメージアップについて

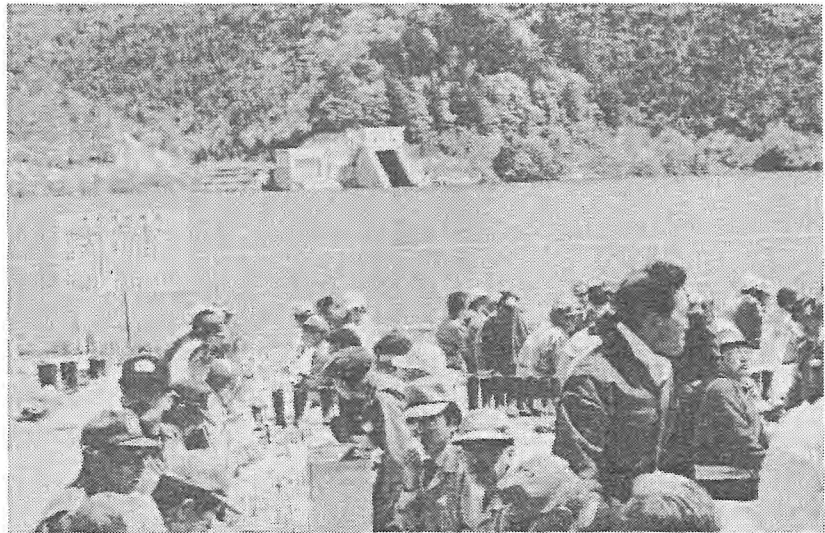
大鰐営林署 ○箱田 貞一
野坂 悦雄
木田 俊男
青森営林署 菅原 薫

1. はじめに

大鰐営林署管内の国有林野は、大鰐町と碓ヶ関村の1町1村にまたがり、その面積は15,400haで、国有林野の占める割合は60%と高い比率となっている。

大鰐町には古くから湯の町として親しまれてきた「大鰐温泉」や「大鰐温泉スキー場」があり、町では年間を通してのリゾート型の観光開発を志向している。

平成元年12月に大鰐町が地域の活性化を図るために「大鰐リゾート整備構想事業」の一環として、早瀬野ダム湖周辺一帯を公園として整備し、「町民の憩いの場」と「訪れる観光客の観光コース」として、その対象地と植樹に関する技術指導等を大鰐営林署に要請してきました。



(写-1) 早瀬野ダム湖周辺

大鰐営林署としても、「緑の造成等緑化推進」の啓蒙及び地域活性化のために協力し、合わせて国有林のイメージアップにつなげる絶好の機会であると判断し、大鰐町の要請に積極的に応え、職員一丸となって、地域とともに植樹祭を実施したのでその経過と成果を発表するものである。

2. 実行の経過

大鰐町と大鰐営林署は、早瀬野ダム湖周辺一帯をどのような形で公園化して

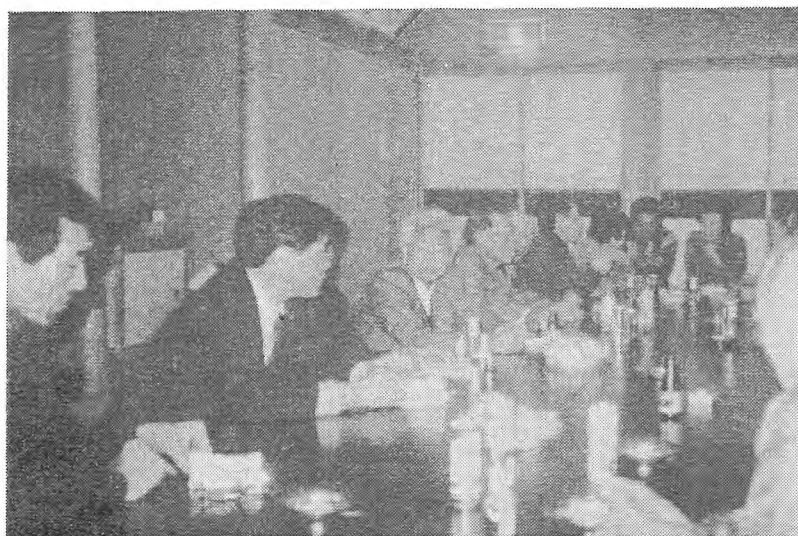
いくつかを鋭意検討した結果、その第一段階として植樹祭方式で整備していくこととなった。

かねてから、このダム湖周辺一帯の公園化に高い関心を持っていた地元住民で組織する早瀬野区会が、地域活性化のために自らも参加したいとの意向を伝えてきたことから、大鰐町、大鰐営林署共催、早瀬野区会後援により、「育もう、緑の安らぎを、早瀬野の森に」をスローガンに、平成2年度を初年度とし、3年間で早瀬野ダム湖周辺に600本の桜の木を植樹することとしました。

実施方法としては、

大鰐町、大鰐営林署及び早瀬野区会の三者による「平成2年度植樹祭実行委員会」を組織し、初年度分として、桜の木200本を植樹することになった。

企画、準備等の立案は大鰐営林署が主体となり、植樹木及び主要な物品は大鰐町



(写-2) 実行委員会の会合

表-1 平成2年度 植樹祭使用経費内訳表

項目	単位	数量	単価	金額	分 担			備 考
					町	営林署	区会	
桜苗木購入	本	200	3,300	660,000	660,000			
支柱工作	組	200	2,100	(420,000)		(420,000)		
支柱取付	人	10	10,700	107,000		107,000		
植穴堀	ヶ所	200	146,000	(146,000)		(146,000)		
客土運搬	m ³	30	2,500	75,000	60,000	(15,000)		
消耗品購入	式	1		120,000	100,000	20,000		
懇親会	〃	1		540,000	338,000	102,000	100,000	
記念碑建立	〃	1		250,000			250,000	
計				2,318,000	1,158,000	810,000	350,000	
						(581,000)		

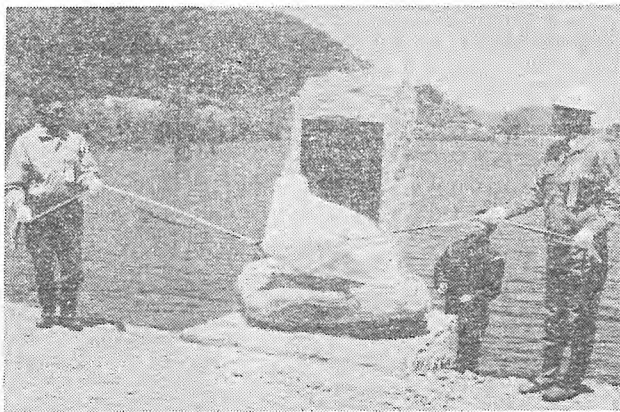
が調達し、支柱の製作・植樹に関する技術指導等は大鰐営林署が担当，その他の経費は各々の招待者数に応じて三者で分担しました。

植樹祭の使用経費は，概ね表-1のとおりである。

桜の木を支える支柱工作については営林署の担当となったが，その資材はスギ保育間伐実行箇所から，現場職員が昼食時及び作業終了時に山から降りてくるときに各々1本ずつ背負ってきて準備しました。



(写-3) 職員実行による支柱材の搬出



(写-4) 植樹記念碑建立の
除幕の状況



(写-5) 分収育林契約者の夫婦が
力を合わせての植樹風景

3. 研究の結果

このような形で植樹祭を実施したことによって，大鰐町・大鰐町内の学校関係者並びに地域住民などから，大鰐営林署に対する親近感が増し，国有林に対する協力関係も従前より増す気運が生まれてきた。

その具体的な例を2・3紹介しますと

①これまで殆ど営林署を訪れることがなかった，大鰐町内の小・中学校の校長

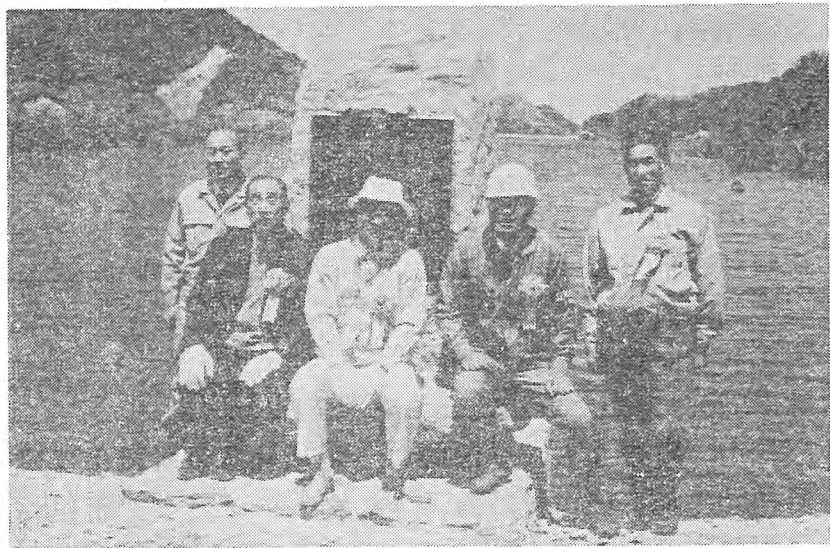
先生が森林教室，体験学習等の相談にたびたび訪れるようになった。

②早瀬野区会からは，平成3年度に早瀬野地区に分収育林の公募地区があれば，10口ほど申し込む意思があるなど，従前以上に営林署に対する協力姿勢を示してきた。

③大鰐町役場との関係についても，従前より目に見えて情報交換が活発化し極めて友好的となり，営林署の事業実行等に対して積極的な協力姿勢がでてきた。

4. 考 察

この植樹祭を体験し，自信をもって言えることは，国有林が真に地域及び一般の多くの方から理解と協力を得ていくためには，「これらの方と何らかの形で係わり合いをもち，親切に対応し，率先して行動する」ことである。



(写-6) 植樹祭開催に当たり，陣頭指揮をとった町・営林署・区会の代表者と記念撮影

5. おわりに

国有林をとりまく環境は，内外共に一段と厳しさを増してきておりますが，今こそ国民参加の森林づくりをモットーに，より対境関係を重視し，地域に真に理解され，協力してもらえる開かれた国有林をつくっていくために，これからも頑張っていく決意であります。